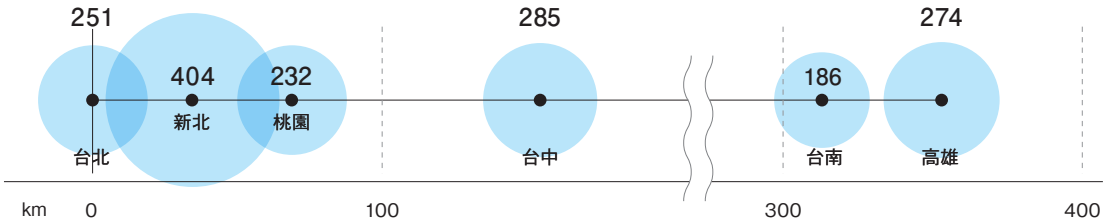
台湾高速鉄道

台湾高速鉄道は、「Crash Avoidance（衝突回避）」の原則に基づく「新幹線」の初の海外展開事例として、2007年1月の部分開業を経て、同年3月に台北～左營間で開業しました。北部の政治経済の中心地である台北から、人口が集中する西部回廊を経て南部の左營に至る高速鉄道の開業により、台湾の社会・経済や人々のライフスタイルは劇的に変化しました。開業当初年間約1500万人だった輸送量は年々増加し、2023年の年間輸送量は7300万人を突破しました。2015年12月に苗栗、彰化、雲林の3駅が開業し、2016年7月には南港駅が開業しました。台湾高速鉄道は、台湾の人々の生活に根差した輸送手段として、今も進化を続けています。

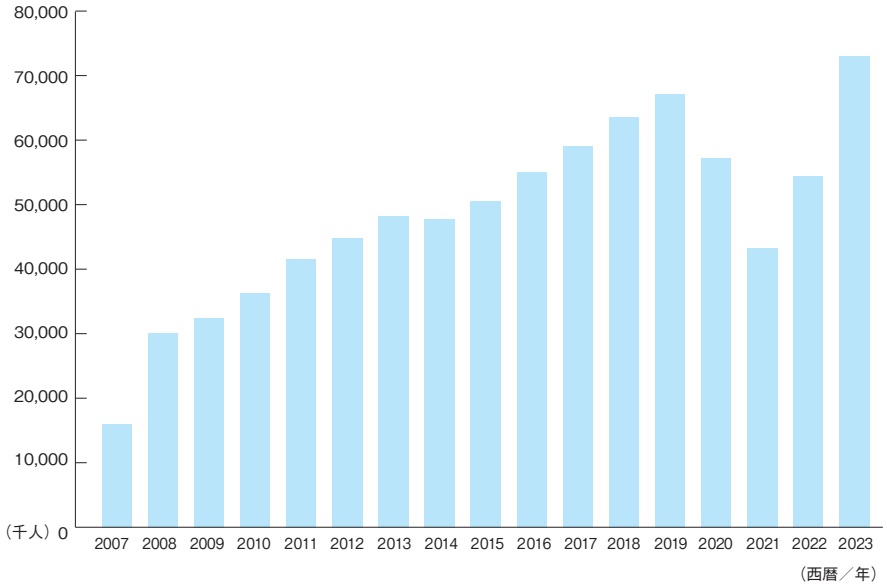
沿線主要都市の分布



中華民国内省部統計年報（2023）
人口の単位は万人

基本情報

営業区間	南港～左營
開業年月	2007年 1 月（板橋～左營） 2007年 3 月（台北～板橋） 2015年12月（苗栗、彰化、雲林） 2016年 7 月（南港～台北）
営業キロ数	350 km
営業最高速度	300 km/h
最短所要時間	1時間45分
列車本数	151本/日※
駅数	12

※列車本数は年間の列車本数を365日で割った数値（2023年1月～12月）

輸送人員推移